

2016年度第3四半期決算及び2016年度通期業績の上方修正見通しを発表

三菱自動車は本日、2016年度第3四半期決算及び2016年度通期業績の上方修正見通しを発表しました。

三菱自動車の社長兼CEOの益子修は、「当社は、日産自動車とのアライアンスを通じ、結果に焦点を当てた規律有るコミットメントの文化が浸透してきています。この下期業績を来期につなげ、V字回復シナリオを確かなものにしていけるよう、全力で取り組んで参ります。」と語りました。

1. 2016年度第3四半期業績概要

	1~3Q 累計 (4月~12月)				3Q 単独 (10月~12月)			
	2015年度	2016年度	前年比	%	2015年度	2016年度	前年比	%
売上高	1兆6,620億円	1兆3,418億円	▲3,202億円	(▲19.3%)	5,922億円	4,769億円	▲1,153億円	(▲19.5%)
営業利益 (営業利益率)	1,020億円 (6.1%)	▲232億円 (▲1.7%)	▲1,252億円 (▲7.8%)	(-)	436億円 (7.4%)	84億円 (1.8%)	▲352億円 (▲5.6%)	(▲80.7%)
経常利益	1,067億円	▲222億円	▲1,289億円	(-)	482億円	60億円	▲422億円	(▲87.6%)
当期純利益 ^{※1}	767億円	▲2,133億円	▲2,900億円	(-)	246億円	63億円	▲183億円	(▲74.4%)
小売台数	787千台	673千台	▲114千台	(▲14.5%)	266千台	237千台	▲29千台	(▲10.9%)

第3四半期累計期間(2016年4月1日~12月31日)の売上高は前年比19%減の1兆3,418億円となりました。営業利益は、前第2四半期までの損失が大きく第3四半期累計で▲232億円の赤字が残りましたが、第3四半期単独(2016年10月1日~12月31日)ではコスト削減を中心とした経営効率改善に為替の効果も加わり、84億円と四半期ベースでの黒字を回復しました。

経常利益と当期純利益も同様に、累計での赤字は残るものの、第3四半期単独では黒字を回復しています。

2. グローバル販売状況

2016年度第3四半期累計期間のグローバル販売台数は673千台となり前年同期から15%減少しましたが、10月の公表計画に対してはほぼオンラインでの進捗となっています。

日本は、燃費不正問題の影響による前第2四半期までの大きな落ち込みを挽回するには至らず、前年比24%減の50千台となりましたが、第3四半期単独では前年比1千台増とわずかながらプラスに転じています。

北米は、『ミラージュ』が減少したものの、好調な『アウトランダー』が販売を支え、前年並みの101千台となりました。

欧州は、経済状況の振るわないロシアの落ち込みに、オランダで好調であった『アウトランダーPHEV』の減少も加わり、地域全体で前年同期を16%下回る132千台となりました。

アジアは、全体で前年比5%減の229千台となりました。前年の新型『パジェロスポーツ』の投入と税制恩典の駆け込み需要で前年に販売が好調であったタイでの反動減によりアセアンが減少する一方、中国は現地生産化した『アウトランダー』の増加で徐々に回復してきています。

その他、中東・中南米における資源安の影響が続き、その他地域全体で27%減の161千台となりました。

3. 2016年度通期業績の見直しを修正

第3四半期決算及び最新の見直しを踏まえ、今年度通期の業績予想を以下の通り見直すことにしました。

	通期 (2016/4月～2017/3月)		従来比	%	(参考) 2015年度 通期	下期 (2016/10月～2017/3月)		(参考) 2015年度 下期
	(従来)	(修正後)				(従来)	(修正後)	
売上高	1兆8,400億円	1兆8,900億円	+500億円	(+2.7%)	2兆2,678億円	9,751億円	1兆251億円	1兆1,980億円
営業利益	▲276億円	10億円	+286億円	(-)	1,384億円	40億円	326億円	800億円
(営業利益率)	(▲1.5%)	(0.1%)	(+1.6%)		(6.1%)	(0.4%)	(3.2%)	(6.7%)
経常利益	▲282億円	15億円	+297億円	(-)	1,410億円	0億円	297億円	825億円
当期純利益 ^{※1}	▲2,396億円	▲2,020億円	+376億円	(+15.7%)	726億円	▲200億円	176億円	205億円
小売台数	933千台	921千台	▲12千台	(▲1.3%)	1048千台	497千台	485千台	527千台

営業利益は、従来予想から286億円改善し10億円の黒字を確保する見直しです。経営効率改善による169億円と為替の効果117億円が主な要因です。上期▲3.7%まで落ち込んだ営業利益率も下期単独で3.2%まで上昇する見込みです。これにより12年連続で通期営業黒字を維持する見直しです。

(※1)親会社株主に帰属する当期純利益

以上

【報道関係者 お問い合わせ先】
 広報部 企業広報グループ： 穂山
 代表 03-6852-4274

本資料に記載されている将来に関する記述を含む歴史的事実以外のすべての記述は、現時点における当社の予測、期待、目標、想定、計画、評価等を基礎として記載されているものです。また、予想数値を算定するために、一定の前提(仮定)を用いています。これらの記述または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証や将来その通りに実現するという保証はありません。これらの記述または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、将来実現しない原因となるリスク要因や不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものとしては、本計画の各種目標・各種施策の実現可能性、金利・為替・原油価格の変動可能性、関係法令・規則の変更可能性、日本国内外の経済・社会情勢の変化可能性等があげられます。なお、潜在的リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんので、ご注意ください。また、当社は、将来生じた事象を反映するために、本資料に記載された情報を更新する義務を負っておりません。投資に関する最終的な決定は、投資家の皆様ご自身の責任をもってご判断ください。本資料に記載されている情報に基づき投資された結果、何らかの損害が発生した場合でも、当社は責任を負いかねますので、ご了承ください。

<平成29年3月期 第3四半期決算参考資料>(連結)

	前第3四半期累計実績 平成28年3月期 (A)	当第3四半期累計実績 平成29年3月期 (B)	通 期 予 想 平成29年3月期 (C)	前回(平成28年10月)予想 平成29年3月期 (D)	前期実績 平成28年3月期 (E)
売上高	16,620 億円	13,418 億円	18,900 億円	18,400 億円	22,678 億円
営業利益 <利益率>	1,020 億円 < 6.1% >	▲232 億円 < ▲1.7% >	10 億円 < 0.1% >	▲276 億円 < ▲1.5% >	1,384 億円 < 6.1% >
経常利益 <利益率>	1,067 億円 < 6.4% >	▲222 億円 < ▲1.7% >	15 億円 < 0.1% >	▲282 億円 < ▲1.5% >	1,410 億円 < 6.2% >
当期純利益※ <利益率>	767 億円 < 4.6% >	▲2,133 億円 < ▲15.9% >	▲2,020 億円 < ▲10.7% >	▲2,396 億円 < ▲13.0% >	726 億円 < 3.2% >
為 替 (売上レート)	122 円/US\$ 134 円/ユーロ	107 円/US\$ 118 円/ユーロ	109 円/US\$ 118 円/ユーロ (第4四半期: 110円/US\$) (第4四半期: 117円/ユーロ)	103 円/US\$ 115 円/ユーロ	121 円/US\$ 133 円/ユーロ
設備投資 (計上ベース)	466 億円	332 億円	610 億円	710 億円	690 億円
減価償却費	399 億円	347 億円	490 億円	500 億円	536 億円
研究開発費	575 億円	622 億円	911 億円	930 億円	787 億円
有利子負債残高	330 億円	1,083 億円			271 億円
総資産	14,614 億円	15,562 億円			14,337 億円
売上台数	914 千台	773 千台	1,109 千台	1,096 千台	1,240 千台
国内	164 千台	101 千台	183 千台	170 千台	246 千台
海外	750 千台	672 千台	926 千台	926 千台	994 千台
生産台数 (自工会ベース)	877 千台	746 千台			1,205 千台

※親会社株主に帰属する当期純利益

営業利益増減要因 (対前年同期比)	当第3四半期累計実績 平成29年3月期	通 期 予 想 平成29年3月期	前回(平成28年10月)予想 平成29年3月期
台数・車種構成等	▲ 249 億円	▲ 255 億円	▲ 270 億円
販売費用	▲ 73 億円	▲ 227 億円	▲ 260 億円
為 替	▲ 601 億円	▲ 793 億円	▲ 910 億円
コスト低減等	150 億円	191 億円	120 億円
その他	▲ 479 億円	▲ 290 億円	▲ 340 億円
(営業利益増減)	▲ 1,252 億円	▲ 1,374 億円	▲ 1,660 億円